

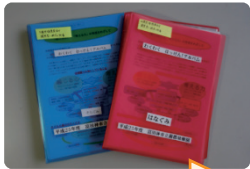
2 保護者と繋がる

「わくわく発見」～みんなで共有する～ 3・4・5歳児

富田林市立錦郡幼稚園

幼稚園での生活は2年間。子どもたちに、ここで育まれた「科学する心」を今後も、引き続き学校教育の中で、そして生きていく中で活かして欲しいと願う。そのためには家庭・地域の理解と協力が必要である。そこで、家庭や地域と幼稚園との循環で遊びや探究心がより深まるように、さまざまな工夫を行った。幼稚園での子どもたちの気付きやつぶやき、探究する姿に共感し、その姿を家庭でも共有していただきながら、子どもの豊かな成長をともに支えたいと考えている。

わくわく発見アルバム



一人1冊ずつの「わくわく発見アルバム」



砂場遊びや石鹸での泡遊びの中でいろいろな楽しみ方を発見した子どもの姿を『わくわく発見アルバム』に載せて発行。その後、家の風呂場で泡遊びを多くの子が楽しんだ。園で発見し、楽しんだことを家でも再現できるような場を作る家庭もあった。その時の様子を嬉しそうに語る保護者もいた。
家庭での発見、園生活で楽しかった事や絵本を読み描いた絵を持ってくるようになった。保護者の子どもへの見方が少しずつ変わり、子どもの新たな一面を発見する喜びを感じていることが分かった。

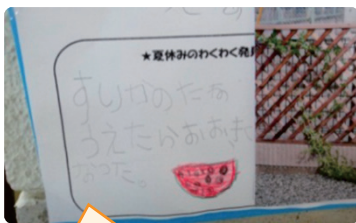
わくわく発見ボード



子どもたちが夢中になっている「こすりだし」の様子の写真や作品を提示。

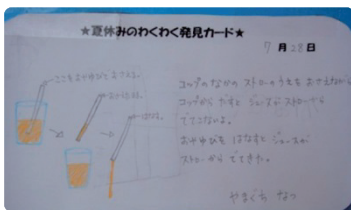
その日、その時期の子どもたちの遊びや生活の姿から、子どもたちの気付きや発見などを、写真とコメントや作品を中心に紹介するボード。
一人ひとりの子どもが感じたこと・考えたことを大切に取り上げている。ボードは持ち運びができる。保育中は友達同士の情報共有の場となっている。
日々の登降園時に見ることができるよう、玄関前に置くことで、保護者同士、親子での会話の場になっている。

夏休みわくわく発見カード



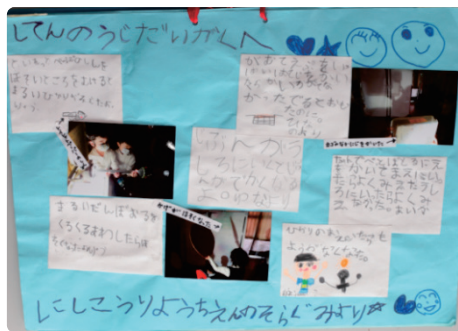
庭にスイカの種を植えたらツルが伸びた。お母さんが写真を撮ってくれた。

夏休みも、子どもの些細な発見や不思議と感じる気持ちを大切にしたいと「夏休みのわくわく発見カード」を親子に配布した。発見カードからは、子どもたちのつぶやきを保護者が受け止めたり共感したりしている姿が伝わってくる。



ジュースを飲んでいて発見したことをお母さんが書いてくれたよ。

発見と感謝を伝えたい～影絵を覚えてくれた学生へ～



丸い段ボールをくるくる回したら影が細くなったよ。

自分が後ろに行くと影がでかくなるよ。

近くの大学の学生が、子どもたちに影絵を見せてくれたことから、興味をもち影絵遊びが発展した。そこで、たくさんの発見・気付きがあった。
教えてくれた感謝の気持ちを込めて、自分たちの言葉で感じたこと・考えたことを書き、プレゼントした（3ページの中の1枚）。プレゼント作りを通して、振り返りを楽しめた。

一人ひとりの子どもの小さな気付き・発見を園も家庭も大切にして、共有を図っていることは、発見の喜び・興味の追求・表現する力など子どもたちの「科学する心」の育ちに繋がっています。幼稚園の遊びや生活が家庭で展開したり、家庭での発見が幼稚園の遊びに活かされたりなど、園・家庭・地域との生活の連続性が子どもたちの遊びを豊かにしていることが分かります。